



(一) つぎの 文<sup>ぶん</sup>の 中<sup>なか</sup>で カタカナで かく  
ことばを さがし、□に カタカナで かこう。

① あしたの たんじょう日<sup>び</sup> くれぜんとい、  
おるごーるを あげよう。

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

② おかあさんが みしんで えぷろんを  
ぬって います。

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

(二) たいだい かきかたを して いる ほうに、  
○を つけよう。

① (ハアモニカ  
(ハーモニカ

② (メロディー  
(メロディー

③ (タクシイ  
(タクシー

④ (ビスケット  
(ビスケット

⑤ (セロハンテープ  
(セロハンテープ

⑥ (ブロック  
(ブロック

⑦ (ガムテープ  
(ガムテープ

⑧ (ブロッコリー  
(ブロッコリー

⑨ (フロミンゴ  
(フロミンゴ

⑩ (アメリカ  
(アメリカ

《ふりかえり もんだい1》

つぎの ひらがなに  
 せんで むすび、□の  
 一字ずつ いれよう。

あう  
 中に あう カタカナを、  
 あう カタカナを

① まよねーず

・パ

ダ

② ぱとかー

・チ

コレート

③ ぱんだ

・パイナ

プル

④ せろてーぶ

・エレ

ーター

⑤ ちよこれーと

・パ

カー

⑥ ばいなつぷる

・マ

ネーズ

⑦ えれべーたー

・セロ

ープ

つぎの □の 中に あう カタカナを、  
 入れよう。

① ハン

ーガー

② ボウ

ング

③ コンサ

ト

④ サイン

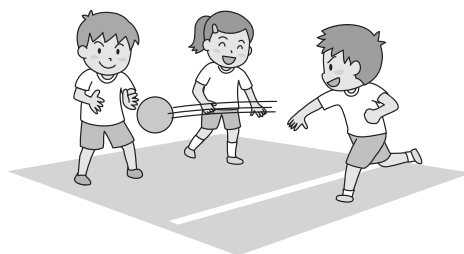
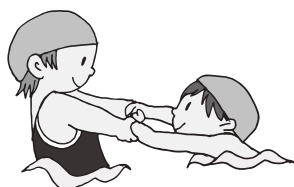
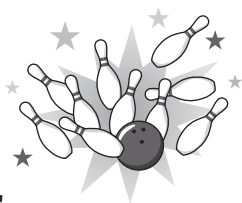
ン

⑤ スイミ

グ

⑥ ドツ

ボール



(一) つぎの 文の 中で カタカナで かく  
 ことばを さがし、□に カタカナで かこう。

① おーとばいに のせて もらったら、すごい  
 すぴーどなので、おどろいて しまった。

② おとうさんに かって もらった  
 とらんぷで、げーむを して あそびました。

③ おてんきが よいので、さんどいっちを  
 つくって ぴくにつくに いきました。

(二) ただしい かきかたを して いる ほうに、  
 ○を つけよう。

① ( ) インク  
 ( ) イソク

② ( ) オウカミ  
 ( ) オオカミ

③ ( ) バター  
 ( ) バター

④ ( ) コウロギ  
 ( ) コオロギ

つぎの 文<sup>ぶん</sup>しょうを よんで といに答<sup>こた</sup>えよう。

その おじさんは、とても りっぱな かさを  
もっていました。黒<sup>くろ</sup>くて ほそくて、  
ひかった つえの ようでした。おじさんは、  
出<sup>で</sup>かける ときには いつも、かさを もって  
でかけました。

すこしくらいの 雨<sup>あめ</sup>なら ぬれたまま あるき  
ました。かさが ぬれて しまうからです。  
たくさんの 雨<sup>あめ</sup>が ふると、あまやどりをして、  
雨<sup>あめ</sup>が やむまで まちました。いそぐ ときは  
ぬれないように かさを しっかり だいて、  
はしりました。もっと もっと 大<sup>おお</sup>ぶりの 日<sup>ひ</sup>は、  
どこへも 出<sup>で</sup>かけず、雨<sup>あめ</sup>が やむまで ずっと  
いえに いました。

(1) おじさんは でかける とき いつも  
どうして いましたか。□に 入<sup>はい</sup>る ことばを  
書<sup>か</sup>こう。

いつも、

でかけた。

(2) □には、つぎの うち、どの ことばが  
入りますか。アから ウから えらぼう。

ア ギギギ イ ピカピカ ウ ふわふわ

(3) おじさんは どんな 雨<sup>あめ</sup>の ときにも かさを  
さしませんでした。それは どうして でしょう。

(4) おじさんは 大<sup>おお</sup>ぶりの 雨<sup>あめ</sup>の日<sup>ひ</sup>は、どうして  
すごしましたか。□に 入<sup>はい</sup>る ことばを 書<sup>か</sup>こう。

どこへも

、  
雨<sup>あめ</sup>が

やむまで

いました。

つぎの 文<sup>ぶん</sup>しょうを よんで といに答<sup>こた</sup>えよう。

ろくべえが、あなに おちて いるのを

さいしよに 見<sup>み</sup>つけたのは、えいじくんです。

「まぬけ」と、かんちゃんが 言<sup>い</sup>いました。

犬<sup>いぬ</sup>の くせに、あなに おちるなんて。あなは、

ふかくて まっくらです。おくの ほうから

聞<sup>き</sup>こえる なき声<sup>こゑ</sup>で、ろくべえという ことは

わかりますが、すがたは 見<sup>み</sup>えません。

だれかが、ロープを つけて、下<sup>した</sup>に おりて

いけば いいのでしようが、それは 一<sup>いち</sup>年<sup>ねん</sup>生<sup>せい</sup>には

おりです。高<sup>こう</sup>学<sup>がく</sup>年<sup>ねん</sup>の 子<sup>こ</sup>は、まだ、学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>です。

今日は、日<sup>にち</sup>よう日<sup>び</sup>では ないので、お父<sup>とう</sup>さんも

しごとで いません。こまった。

(1) 「ろくべえ」とは、何<sup>なん</sup>の 名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>ですか。

アから ウから えらぼう。

ア お父<sup>とう</sup>さん イ あな ウ 犬<sup>いぬ</sup>

(2) 「まぬけ」と ありますが、どうして ですか。  
□に 入<sup>はい</sup>る ことばを 書<sup>か</sup>こう。

のくせに

に おちた

(3) どんな あなですか。

な あな

(4) どうして、高<sup>こう</sup>学<sup>がく</sup>年<sup>ねん</sup>の 子<sup>こ</sup>や、お父<sup>とう</sup>さんに、  
たすけて もらえないのですか。□に 入<sup>はい</sup>る  
ことばを 書<sup>か</sup>こう。

高<sup>こう</sup>学<sup>がく</sup>年<sup>ねん</sup>の 子<sup>こ</sup>は まだ、

お父<sup>とう</sup>さんは

で いない。

つぎの 文<sup>ぶん</sup>しょうを よんで といに答<sup>こた</sup>えよう。

みんなは すこしずつ じろうと あそばなく  
なった。じろうは、すこしずつ ひとりぼっちに  
なり、そのくせ だれより いっしょうけんめい  
かくれんぼの ことを かんがえるのだった。  
どこへ かくれたら よいのか、どうすれば  
はやく 見<sup>み</sup>つけられるか。

その日<sup>ひ</sup>も じろうは 一人<sup>ひとり</sup>で かくれんぼの  
けいこを していた。一人<sup>ひとり</sup>で 目<sup>め</sup>を おさえて、  
「もう、いいかい。」と、声<sup>こえ</sup>を はりあげる。  
ぱっと 目<sup>め</sup>を ひらき、ふりかえり、みまわして、  
「ふんふんふん、あそこが あやしいぞ。」と  
かけよってみる。もちろん、だれも いない。

(1) じろうは ひとりぼっちに なって  
いっしょうけんめい 何<sup>なん</sup>のことを かんがえ  
ましたか。

(2) せんの かくれんぼの けいこ とは、

どんな けいこですか。ア<sup>か</sup>から ウから えらぼう。

ア おにに なっても はやく みつける けいこ

イ おにに みつからないように する けいこ

ウ おにに ぜったいに ならないための けいこ

(3) じろうは どうして ひとりで かくれんぼの  
けいこを していたと 思<sup>おも</sup>いますか。あなたの  
かんがえを □の 中<sup>なか</sup>に かこう。

つぎの 文<sup>ぶん</sup>しょうを よんで といに答<sup>こた</sup>えよう。

ゆうじさん、みきさん、ひろしさんの 三人<sup>さんにん</sup>は、  
山<sup>やま</sup>みちをのぼって行<sup>い</sup>きました。みちには、かきの  
赤<sup>あか</sup>い葉<sup>は</sup>がおちていました。三人<sup>さんにん</sup>は、一番<sup>いちばん</sup>上<sup>うへ</sup>まで  
のぼって行<sup>い</sup>きました。「学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>が見<sup>み</sup>えるよ。」と、  
ひろしさんが言<sup>い</sup>いました。すると、みきさんが  
「あそこにバスの走<sup>はし</sup>っている。」と、遠<sup>と</sup>くの方<sup>ほう</sup>を  
ゆびさして言<sup>い</sup>いました。田<sup>た</sup>んぼで、いねをかつて  
いる人<sup>ち</sup>が小<sup>ち</sup>さく見<sup>み</sup>えます。三人<sup>さんにん</sup>は、おーい。と  
言<sup>い</sup>って手<sup>て</sup>をふりましたが、ここからでは 聞<sup>き</sup>こえ  
ないようです。そのあと、三人<sup>さんにん</sup>は林<sup>はやし</sup>の中<sup>なか</sup>へ入<sup>い</sup>って  
行<sup>い</sup>きました。「あ、どんぐりがおちているよ。」  
ゆうじさんが大<sup>おお</sup>きな声<sup>こえ</sup>で言<sup>い</sup>いました。

(1) かきの葉<sup>は</sup>がおちていたのは、どこですか。

(2) 山<sup>やま</sup>の上<sup>うへ</sup>から、何<sup>なに</sup>を見<sup>み</sup>つけましたか。三<sup>みつ</sup>つ書<sup>か</sup>こう。

(3) 山<sup>やま</sup>の上<sup>うへ</sup>で遠<sup>と</sup>くをゆびさしたのは、だれですか。

(4) どんぐりを見<sup>み</sup>つけたのは、だれですか。

(5) この文に書かれているきせつは、秋です。  
それは何でわかりますか。三つ書こう。

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|--|--|--|

人ひと